

琴にて秋風樂をひきすましたるを聞て西行此侍にも申さむといひければにくしとは思ひながら立寄て何事ぞといふにみすのうちへ申させ給へとて

ことに身にしむ秋の風かなといひでたりければにくきほうしのいひごとかなとてかまちはりてけり西行はふく歸りてけり後に中納言のかへりたるにかゝるまれ物こそ候つれ

はりふせ候ぬとかしこがほにかたりければ西行にこそありつらめふしぎの事也とて心うがられけり此侍をばやがておひ出してけり

ナドリ

〔和漢三才圖會支體十二頭略〕頭〇中

嬰兒腦骨未合軟而跳動處曰顛門アドリ

〔身體和名集達〕ヲトリコヲドリヲンドリ 顛頭

〔和漢三才圖會經十督脈〕二十八穴

百會天嶺上 在前頂後一寸五分頂中央旋毛之心容豆許直兩耳尖爲三陽五會穴督脈手足少陽足厥陰共會

於此故名

灸治脫肛目泣出耳鳴驚風反張吐沫者

蟀谷

〔倭名類聚抄三頭面〕蟀谷髮際

針灸經云耳以上入髮際一寸半有二穴應嚼而動謂之蟀谷和名古○米加美 髮

際加美波

〔箋注倭名類聚抄二頭面〕按鍼灸甲乙經云率谷在耳上入髮際一寸五分足太陽少陽之會嚼而取之

其文與此略同外臺秘要引甲乙經作蟀谷醫心方同古女加美見平治物語按古米加美蓋米嚼之

義謂嚼米則動也

〔伊呂波字類抄古體〕蟀谷コメカミ

〔倭訓栞中編八〕こめかみ 倭名抄に蟀谷をよめり應嚼而動と注せり米嚼の義也